

トマト茎えそ病(CSNV)の発生について

- (1)病 害 名 : トマト茎えそ病
(2)病 原 名 : キク茎えそウイルス(chrysanthemum stem necrosis virus , CSNV)
(3)発生作物 : トマト

1 発生の経緯

令和2年10月、宮城県内の施設栽培トマトにおいて、茎及び葉のえそ症状、果実の着色異常等を呈する株が発生した(図1, 図2)。宮城県農業・園芸総合研究所でRT-PCR法による遺伝子診断を実施した結果、キク茎えそウイルス(chrysanthemum stem necrosis virus , CSNV)が検出され、トマト茎えそ病と確認された。本病は平成20年に群馬県で初めて発生が確認され、これまでに16都府県で発生が報告されている。

本県での本ウイルスによる病害は、平成22年にキク、平成23年にトルコギキョウで確認されているが、トマトでの発生は初めてである。なお、当該施設以外での発生は確認されていない。

2 病徴

茎にえそ、葉にえそや退緑、輪紋、果実では着色異常やえそ、変形を生じ、株の生長点付近ではえそ、萎縮、褐変等の症状を生じる。これらの症状は、トマト黄化えそウイルス(TSWV)による病徴と酷似しているため、識別は難しい。

3 病原ウイルスの特徴

(1)伝染方法

本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマ(図3)により媒介される。1齢幼虫が罹病植物を吸汁することによって本ウイルスを獲得し、成虫が死ぬまでウイルスを伝搬する。経卵伝染、種子伝染、汁液伝染及び土壌伝染はしないとされている。

(2)感染植物

トマトの他、ミニトマト、ピーマン、トウガラシ、キク、アスター、トルコギキョウへの感染が報告されている。

4 防除対策

- (1)罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却または埋設処分を行い、伝染源を除去する。
(2)媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する(表1)。育苗の段階から防除を徹底し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避ける。
(3)施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネット(赤色)を設置し、本虫の侵入を防ぐ。
(4)施設内及び周辺雑草は本虫の生息場所となるため、施設内外の除草を徹底する。
(5)栽培終了後は、残さを速やかに除去する。夏期間においては、施設を密閉して高温を保ち、本虫を死滅させる。

表1 ミカンキイロアザミウマの主な登録薬剤

(令和2年度宮城県農作物病害虫・雑草防除指針より一部抜粋, 編集)

薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍数	IRACコード	備考
プリロン粒剤	育苗期後半から定植時	1	2g/株 (株元散布)	28	アザミウマ類での登録
ディアナSC	収穫前日まで	2	2,500倍	5	アザミウマ類での登録
スピノエース顆粒水和剤	収穫前日まで	2	5,000倍	5	アザミウマ類での登録
カスケード乳剤	収穫前日まで	4	2,000倍	15	
マッチ乳剤	収穫前日まで	4	2,000倍	15	
モベントフロアブル	収穫前日まで	3	2,000倍	23	アザミウマ類での登録
デュアルサイド水和剤	収穫前日まで	3	2,000倍	-	アザミウマ類での登録

※令和2年10月28日現在の登録内容

※IRACコードは、殺虫剤の作用機構分類を表す



図1 茎及び葉のえそ症状



図2 果実の着色異常とえそ症状



図3 ミカンキイロアザミウマ(成虫)

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp